

評価指標

2030年目標	達成項目	評価指標	種類 (※1)	評価指標の考え方	目指す方向性 (※2)	実績値		目標値	考え方
						令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和5(2023)年度	
【目標1】 京都らしさを 支える生物多 様性の持続可 能な利用を図 る	(1) 京都の文化 を支える生物資 源を持続的に利 用する。	鴨川のアユの遡上数	成果指標	京都の伝統や文化等を支える生物資源の1つである鴨川のアユの遡上数の状況を評価	↗	29,070匹	19,450匹	27,889匹	
		市内産チマキザサの利用量	成果指標	推進プロジェクトの一つであり、祇園祭の厄除け粽などの材料となるチマキザサの再生・利用に向けた取組の結果として、生物資源の持続可能な利用の状況を評価	↗	約7万枚	約8万枚	約17万枚	
		「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」取組者数（累計）	活動指標	京都らしさを支えてきた生きものの保全、再生及び持続可能な利用の取組の進捗状況を評価	↗	296者	390者	470者	
		自然環境と調和した文化や暮らしが広がっていると感じている人の割合	成果指標	生物資源の持続可能な利用の取組による効果を主観的に評価	↗	39.7%	36.2%	—	達成項目との関連性が高くないため削除
	(2) 自然が持つ 多様な機能を活 用して、都市の レジリエンスの 向上を図る。	京都市域における自然共生サイトの認定面積	成果指標	生物多様性の保全に貢献しつつ調整・供給などの生態系サービス機能を持った地域の量を包括的に評価	↗	—	190.5ha	—	
		京都市域における二酸化炭素吸収量（森林、農地、緑地）	成果指標	二酸化炭素の吸収源となる森林、農地、緑地の整備状況を評価	↗	24.2万トン	— （集計中）	23.7万トン （※3）	達成項目との関連性が高くないため削除
		雨庭の整備地点数（累計）	活動指標	自然環境が有する多様機能（水源涵養機能等）を活用するグリーンインフラである雨庭の整備に関する取組の進捗状況を評価	↗	11か所	14か所	—	
		親水性のある水辺空間の整備率	活動指標	水との共生に向けた良好な水環境実現を推進する取組の進捗状況を評価	↗	86.4%	95.9%	96.0%	他項目で把握するため削除
	(3) 生物多様性 を活用した持続 可能な観光を促 進する。	【観光客】自然・風景を経験した割合	成果指標	エコツーリズムにつながる自然を体験する観光の実施状況を評価	→	95.1%	92.6%	—	
		【事業者】「景観・環境」につながる行動を1つ以上の項目で積極的に取り組んでいる事業者の割合	成果指標	観光に関わる方による生物多様性や環境に配慮した行動の実施状況を評価	↗	53.2%	50.5%	56.1%	

※1 活動指標は活動によって提供された「モノ」や「サービス」の量（アウトプット）を示す指標、成果指標は活動の結果によってもたらされる住民や地域の状態の変化や便益（アウトカム）を示す指標

※2 「↗」は前年度に比べて増加・上昇を、「→」は維持を、「↘」は減少・低下を目指しているもの

※3 2030年度温室効果ガス排出量46%削減（2013年度比）の達成に向けた当該年度の目安値
令和5(2023)年度の実績は令和7(2025)年夏頃に公開予定のため、令和4(2022)年度の実績及び目標値により評価している

評価指標

2030年目標	達成項目	評価指標	種類 (※1)	評価指標の考え方	目指す方向性 (※2)	実績値		目標値	考え方
						令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和5(2023)年度	
【目標2】 生息・生育地 と種の多様性を 保全・回復 する。	(1) 多様な動植物が見られる重要な生息・生育地の環境を改善する。	重点保全地域における評価指標（検討中）	成果指標	生物多様性の観点から重要とされる地域における生態系の保全や回復の取組の進捗状況を評価	↗	—	—	—	
		京都市域における自然共生サイトの認定面積【再掲】	成果指標	多様な動植物が見られる生息・生育地の保全に取り組む地域の量を包括的に評価	↗	—	190.5ha	—	
	(2) 里地里山の生物多様性の劣化を食い止め、回復を図る。	環境保全型農業取組面積（環境保全型農業直接支払交付金の取組面積）	成果指標	【農地】の観点として、農地の多面的機能発揮に向けた環境保全型農業の取組の進捗状況を評価（取組面積が把握できる事業について進捗把握）	↗	11.07ha	11.23ha	—	
		間伐・保育等実施面積	活動指標	【森林】の観点として、森林の多面的機能発揮に向けた取組の進捗状況を評価	↗	359.41ha	355.95ha	—	
		三山森林景観保全・再生ガイドラインに基づく、市民等との協働による森づくり活動の回数（累計）	活動指標		↗	28回	41回	24回	他項目で把握するため削除
		野生鳥獣による農林産物被害額	成果指標	野生鳥獣との適切な距離を保ち、鳥獣被害を緩和するための取組の進捗状況を評価	↘	32,822千円	— （集計中）	43,463千円 （※3）	
		ミナミメダカの発見数	成果指標	【河川・農地】の観点として、氾濫原における生物多様性の状況を評価	↗	—	—	—	
		京都市域における自然共生サイトの認定面積【再掲】	成果指標	生物多様性の保全につながる地域の量を包括的に評価	↗	—	190.5ha	—	他項目で把握するため削除
	(3) 種の絶滅を食い止める。	市内に生息・生育している京都府レッドデータブック掲載種のうち、絶滅の危険度のランクを下げた種数（累計）	成果指標	生息・生育地の保全・回復の取組等の結果として、希少種の生息・生育状況を評価	↗	19種	43種	—	「京都府PL掲載種のうち、市域確認種数」に変更
		「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」取組者数【再掲】	活動指標	京都らしさを支えてきた生きものの保全、再生及び持続可能な利用の取組の進捗状況を評価	↗	296者	390者	470者	達成項目との関連性が高くないため削除
	(4) 生態系や人の健康、農林業に被害を及ぼす外来生物の拡大を防止するとともに、新たな定着を阻止する。	侵略的外来生物等の防除の取組件数	活動指標	侵略的外来生物等の防除や市民の理解促進に向けた取組の進捗状況を評価	↗	7件	7件	—	
		地域根絶が達成された件数（地点数）	成果指標		↗	0件	0件	—	他項目で把握するため削除
		新たな侵略的外来生物の定着確認数	成果指標		↘	—	—	—	
	(5) 河川におけるプラスチックごみによる汚染を大幅に削減する。	プラスチックごみを減らすために取り組んでいる人の割合（プラスチック以外の素材（紙など）のものを優先的に使用する、量り売りや裸売りの商品を優先的に購入しているなど）	成果指標	プラスチックごみの削減に寄与する、プラスチック代替製品への転換状況を主観的に評価	↗	75.1%	75.3%	—	
		淀川クリーン作戦で回収されるごみ量	成果指標	プラスチックごみによる河川の汚染状況を客観的に評価	↗	1,065袋	954袋	—	
	(6) 地球温暖化を緩和する。	京都市域の温室効果ガス排出量削減率	成果指標	地球温暖化の緩和に向けた取組による効果を評価	↗	22.6%	— （集計中）	28.4% （※3）	
		京都市域における二酸化炭素吸収量（森林、農地、緑地）【再掲】	成果指標		↗	24.2万トン	— （集計中）	23.7万トン （※3）	

※1 活動指標は活動によって提供された「モノ」や「サービス」の量（アウトプット）を示す指標、成果指標は活動の結果によってもたらされる住民や地域の状態の変化や便益（アウトカム）を示す指標

※2 「↗」は前年度に比べて増加・上昇を、「→」は維持を、「↘」は減少・低下を目指しているもの

※3 2030年度温室効果ガス排出量46%削減（2013年度比）の達成に向けた当該年度の目安値
令和5(2023)年度の実績は令和7(2025)年度頃に公開予定のため、令和4(2022)年度の実績及び目標値により評価している

評価指標

2030年目標	達成項目	評価指標	種類 (※1)	評価指標の考え方	目指す方向性 (※2)	実績値		目標値	考え方
						令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和5(2023)年度	
【目標3】 生物多様性に 配慮したライフ スタイルへの 転換を図る。	(1) 生物多様性に 配慮した消費 行動が広がっている。	「エシカル消費」の認知度	成果指標	生物多様性に配慮した製品やサービスの選択を含む「エシカル消費」の普及状況を主観的に評価	↗	24%	33%	40%	他項目で把握するため削除
		コープ商品のエシカル消費対応商品の売上額 (京都市の人口/日本の人口)	成果指標	生物多様性保全に関する認証ラベルの付いた商品の普及状況を客観的に評価	↗	26.1億円	28.5億円	—	
		買い物をする時やサービスを利用する時に、エコマーク、省エネラベル、持続可能な森林経営、化学物質に頼らない食品などの環境ラベルを見て買う人の割合	成果指標	生物多様性に配慮した行動の普及状況を主観的に評価	↗	16.6%	14.6%	—	
	(2) 一人ひとりが自然を身近に感じ、暮らししている。	暮らしの中で、自然を身近に感じる機会がある人の割合	成果指標	一人ひとりが自然を身近に感じ、暮らししている状況を評価	↗	72.3%	70.4%	—	
	(3) 一人ひとりが生物多様性とのつながりを認識している。	暮らしや経済活動が多様な生きものから受ける恵みにより支えられていると感じている人の割合	成果指標	一人ひとりが生物多様性とのつながりを認識している状況を評価	↗	65.6%	61.1%	—	
	(4) 一人ひとりが生物多様性のために行動している。	暮らしの中で生物多様性に配慮している人の割合	成果指標	一人ひとりが生物多様性のために行動している状況を評価	↗	40.4%	41.1%	—	他項目で把握するため削除
		生物多様性を守るために、取り組んでいる人の割合	成果指標	一人ひとりが生物多様性のために行動している状況を評価	↗	54.5%	53.3%	—	新設
		京の生物多様性担い手宣言制度の宣言数	成果指標	生物多様性の保全のために行動する人を増やし、継続的に行動を促す取組による効果を評価	↗	3,572件	6,876件	25,000件	達成項目との関連性が不高いため削除
		担い手宣言者の宣言後に実践した行動 (アンケート調査の内容を検討中)	成果指標	京の生物多様性担い手宣言制度の宣言者による行動変容の状況を評価	↗	—	—	—	他項目で把握するため削除
		環境保全活動プログラムの参加者数 (うち自然共生がテーマのもののみ)	成果指標	生物多様性のために行動している状況を評価	↗	144,988名	192,495名	156,087名	

※1 活動指標は活動によって提供された「モノ」や「サービス」の量（アウトプット）を示す指標、成果指標は活動の結果によってもたらされる住民や地域の状態の変化や便益（アウトカム）を示す指標

※2 「/」は前年度に比べて増加・上昇を、「→」は維持を、「\」は減少・低下を目指しているもの

評価指標

2030年目標	達成項目	評価指標	種類 (※1)	評価指標の考え方	目指す方向性 (※2)	実績値		目標値	考え方
						令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和5(2023)年度	
【目標4】 社会変革に向けた仕組みを構築する。	(1) 生物多様性に配慮した経済活動を促進する。	京都市域における自然共生サイトの認定面積【再掲】	成果指標	生物多様性の保全につながる地域の量を包括的に評価	↗	—	190.5ha	—	
		TNFDの賛同団体数等	成果指標	企業における生物多様性に配慮した活動の進捗状況を評価	↗	4団体	7団体	—	
		企業における認証制度の取得数 (ABINC、JHEP、SEGESなど)	成果指標	企業における生物多様性に配慮した活動の進捗状況を評価	↗	4件	4件	—	他項目で把握するため削除
		「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」取組者数【再掲】	活動指標		↗	296者	390者	470者	達成項目との関連性が不高いため削除
		竣工した公共施設におけるCASBEE京都のAランク又はSランクの割合	活動指標	公共施設における生物多様性に配慮した取組の進捗状況を評価	→	100%	100%	100%	
	(2) 生物多様性保全のための活動を支援する。	京の生物多様性担い手宣言制度 宣言数【再掲】	成果指標	生物多様性の保全のために行動する人を増やし、継続的に行動を促す取組の進捗状況を評価	↗	3,572件	6,876件	25,000件	達成項目との関連性が不高いため削除
		ポータルサイト「京・生きものミュージアム」における生物多様性保全活動に取り組む団体の紹介数	活動指標	生物多様性の保全のために取り組む団体を支援する取組の進捗状況を評価	↗	43団体	46団体	—	他項目で把握するため削除
		きょうと生物多様性センター等による支援数	活動指標	生物多様性の保全のため活動を支援する取組の進捗状況を評価	↗	—			新設
		環境保全活動プログラムの参加者数 (うち自然共生がテーマのもののみ)【再掲】	成果指標	生物多様性の保全のための活動の広がり の進捗状況を評価	↗	144,988名	192,495名	156,087名	他項目で把握するため削除
	(3) 生物多様性に関する情報の集約・発信力を強化する。	ポータルサイト「京・生きものミュージアム」の閲覧者数	成果指標	生物多様性に関する情報の集約・発信する取組の進捗状況及びその効果を評価	↗	26,257回	35,183回	100,000回	他項目で把握するため削除
		SNSの閲覧数・いいね数	成果指標		↗	899,153件	44,490件	—	他項目で把握するため削除
		ポータルサイト「京・生きものミュージアム」に掲載したイベント数	活動指標		↗	89件	73件	—	他項目で把握するため削除
		きょうと生物多様性センター等における情報の発信数	活動指標		↗	—			新設
	(4) 生物多様性の現状を把握するための知見を集積する。	京の生きもの生息調査 報告数	活動指標		↗	224件	213件	1,000件	「市民参加型調査の結果」に変更
		長期的・定量的な調査結果の集積件数 (きょうと生物多様性センターにおける情報の集積数)	成果指標	市内の生物多様性の現状を把握する取組の進捗状況を把握	↗	—			新設

※1 活動指標は活動によって提供された「モノ」や「サービス」の量（アウトプット）を示す指標、成果指標は活動の結果によってもたらされる住民や地域の状態の変化や便益（アウトカム）を示す指標

※2 「↗」は前年度に比べて増加・上昇を、「→」は維持を、「↘」は減少・低下を目指しているもの